

大井沢に輝いた志田周子の生涯

ひとり芝居「真知子」ある女医の物語」より



志田周子さんをモデルにした“阿部真知子”を演じる俳優・今田裕美子さん。医師であり、それ以前に一人の女性である志田周子さんの生涯を迫真の演技で魅せていただきました。



町制施行五十五周年および町芸術文化協議会創立四十周年を記念し、ひとり芝居「真知子」ある女医の物語」が十一月一日、交流センターあいべ大ホールで開催され、町内外から訪れた約三百名の観客が天童市在住の俳優・今田裕美子さんの迫力ある舞台を楽しみました。

このひとり芝居は、無医村だった大井沢に医者として戻り、生涯を大井沢の医療に捧げた志田周子（ちかこ）さんをモデルに今田さんが企画したオリジナルの作品です。今田さんは、幼少の頃から芸能界にアコガレがあったといい、高校を卒業と同時に上京し劇団に入団。自分の夢であった演劇の舞台で活躍の場を広げていきました。その後、山形に戻って、偶然出会った志田周子さんのことが書かれた記事からこのひとり芝居「真知子」ある女医の物語」が生

まれ、平成十三年十二月に大井沢「自然と匠の伝承館」で初公演を行ってから、これまで県内を中心に十四回の公演を行って来られました。

舞台で、志田周子さんをモデルにした「阿部真知子」が大井沢に戻るまでの心境や、戻ってからの村人の偏見に苦悩する姿、そして献身的に医療に邁進する様子など、一人の女性の生き方を迫真の演技で演じきった今田さん。公演が終わると満員の客席から割れんばかりの盛大な拍手が今田さんに送られました。

公演終了後、今田さんは「こういうすばらしい女性がいたんだよ」ということを、これからは志田周子さんという一人の女性の生き方を「阿部真知子」を通じて知ってもらえるよう多くの方の前で演じていきたい」と、これからの活動にかける思いを話してくださいました。

インタビュー Interview

内に秘めた思いを代弁したい

平成十年に山形に戻った今田さんは、その後しばらくして、偶然手にした県広報誌「県民のあゆみ」のある記事に衝撃を受けたと言います。それは、ひとり芝居を始めるきっかけとなった志田周子さんの記事との出会いでした。

「その一人の女性としての生き方、そして周子さんも東京から山形に戻り、また自分も東京から戻った現状に人生が重なるような感覚を覚えた」と話す今田さん。「女性が生きていくこととはそんなに簡単なことではないと思うんです。昔ならばなおのこと大変だったと思う。そうした中で、自分の人生を大井沢での医療に捧げ、一人の女性として生きた周子さんのその生き方を知りたいと思う。今の世に志田周子さんが生きていたならば、様々な活動をしていたんじゃないか

と想像する中で、その周子さんの思いを、私が阿部真知子という役を演じ、舞台でしゃべることによって生き返るんじゃないかと思っている。そして、周子さんが内に秘めて言えなかったことを私が舞台で代弁したい」そうしたい思いから、今田さんは「女医・志田周子」をモデルにオリジナルの作品「真知子」ある女医の物語」を完成させ、平成十三年十二月一日の大井沢の初公演からこれまで演じて来られたということでした。

志田周子展を開催

志田周子さんのパネル展が大井沢温泉「湯つたり館」と交流センターあいべで開催され、訪れた多くの方々に感動を与えました。

展示会場には、等身大のパネルや往診する周子さんの写真がいくつも見られ、無医村だった大井沢で活躍する女医の姿を見ることができました。また大井沢にある当時の診療所も特別開放され、観光で大井沢を訪れた人たちが立ち寄る姿が見られました。少し薄暗いその部屋には、周子さんが使っていた机や椅子などがあり、昔の面影が感じられました。

志田周子の生涯



(上写真=故志田周子さん)



今田裕美子さん
Yumiko Konta

◎プロフィール Profile

天童市出身。高校を卒業と同時に演劇の世界に入り、平成10年拠点を山形へ移す。

ひとり芝居をメインに、語り劇、講演、山形短期大学人間福祉学科演劇課非常勤講師のほか、演劇手法を用いた「夢こやワークショップ」を主宰。また、テレビ・ラジオ・CM等でも幅広く活躍中。最近では、NHKドラマ「スキップ」に大森文江役として出演されました。



▲公開された大井沢診療所(=大井沢)

明治四十三年十月二十八日、左沢で教員をしていた父莊次郎と母せいいの長女として左沢で生まれる。大正六年四月、父莊次郎の故郷でもあり、校長として赴任していた大井沢尋常小学校に入學。大正十三年四月、山形第一高等女学校(現山形西高校)に進学。村で初めての女学生誕生と話題に。昭和三年四月、父の進めもあり東京女子医学専門学校(現東京女子医科大学)へ入學。昭和十年七月、医師として大井沢へ帰り、無医村だった大井沢の村医として診療や児童らの検診にあたる。その後、婦人会長、村会議員などの要職を歴任し、村の生活向上に尽力。そうした活動に対し、昭和三十四年に保健文化賞を皇居で受賞。その他、医師会、県知事から数々の表彰を受賞。昭和三十七年、がんを患い永眠。享年五十三歳。